

学習のポイント1

古文とは？

古文とは、およそ奈良時代から江戸時代までの日本で書かれた古典文学（文章や詩歌）を指す。古典文学の多くは、平安時代の文法や言葉を基本にしている。古文を読み解くために、これらの文法や言葉を学んでいこう。

学習のポイント2

歴史的仮名遣い

まず声を出して古文を読み、古文のリズムに慣れよう。古文では現代とは異なる仮名遣い（歴史的仮名遣い）が用いられ、現代では使われない文字も使われている。音読するには、歴史的仮名遣いのきまりを覚える必要がある。

古文の五十音

現代文の五十音図と、古文の五十音図では、ヤ行とワ行に違いがある。

	ヤ行	ワ行
現代文	や ゆ よ	わ
古文	やい ゆえよ	わゐ ろゑ

歴史的仮名遣い（＝現代仮名遣いに直すときのきまり）

① 語頭と助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」

例 思ふ↓思う こひ↓こい (恋)

注意！ 「はな(花)」「ふゆ(冬)」など、語頭にあるものは直さない。また、「あさひ(朝日)」「うきはし(浮き橋)」など、複合語は語中にあってもそのまま。

② 「くわ・ぐわ」→「か・が」

例 くわし↓かし (菓子) ぐわんもん↓がんもん (願文)

③ 「ぢ・づ」→「じ・ず」

確認問題 1

次の文の空欄に入る言葉として適切なものを、それぞれ後のア～オから選び、記号で答えよ。

古文とは、およそ [a] 時代から [b] 時代までの日本で書かれた文章や詩歌のこと。主に平安時代の文法や言葉を基準としている。

- ア 奈良
- イ 平安
- ウ 鎌倉
- エ 南北朝
- オ 江戸

[a]
[b]

確認問題 2

(1) 例にならって、古文のヤ行とワ行の五十音図を完成させよ。

例	ア行	あ				
①	ヤ行		い		う	え
②	ワ行					お

(2) 次の古語を現代仮名遣いに直し、例にならって全て平仮名で書け。

① 逢ふ	おも	② 思ひ出
③ 上	おも	④ 直す
⑤ 火事	おも	⑥ 元日
⑦ 地獄	おも	⑧ 水
⑨ 参る	おも	⑩ をかし

(例) あづまぢ↓あずまじ (東路)

注意! 「ちぢむ (縮む)」「おぼろづき (朧月)」「ふづくえ (文机)」「など、

現代仮名遣いと同じものもある。

④「あ・ゑ・を」↓「い・え・お」(助詞の「を」は「を」のまま)

(例) ゐなな↓いなな (田舎) ゑまき↓えまき (絵巻)

を↓こ↓お↓こ (男)

⑤ア段 (a)・イ段 (i)・エ段 (e) の音+「う (u)」

・ア段+「う」(=au) ↓「オー」(o)

(例) だうり (=dauri) ↓どり (=dori) (道理)

・イ段+「う」(=iu) ↓「イー」(yū)

(例) しょうと (=siuto) ↓しゅうと (=syūto) (舅)

・エ段+「う」(=eu) ↓「エー」(yo)

(例) れうり (=reuri) ↓りょうり (=ryōri) (料理)

※それぞれローマ字で書いてみると、正しい読み方がわかりやすくなる。

学習のポイント3 古今異義語・古文特有語

古文は、現代の言葉とは異なる「古語」で書かれている。古語には、現代と似た形の語であっても意味の異なる語や、現代では用いられない古文特有の語もあり、読解の際には注意が必要である。重要な古語は覚えてしまおう。

現代とは意味の異なる言葉 (古今異義語)

(例) をかし……「趣がある・風情がある」などの意味。

(現代語「おかし」は、「おもしろい」の意。)

あはれなり……「しみじみと感慨深い・情趣がある」などの意味。

(現代語「あわれだ」は、「かわいそうだ」の意。)

かなし……「かわいい・いとoshい」などの意味。

(現代語「かなしい」は、「切ない・つらい」などの意。)

現代には残っていない言葉 (古文特有語)

(例) ところせし……「窮屈だ・気づまりだ」などの意味。

あてなり……「高貴だ・上品だ」などの意味。

①	ゐのしし	⑫	笑み
③	拜む	⑭	遠慮
⑤	少納言	⑯	九
⑦	格子	⑰	幽玄
⑨	調度	⑲	成就

確認問題 3

次の古語の意味を答えよ。

(1) あはれなり

(2) かなし

(3) ところせし

(4) あてなり

1 次の古語を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

- (1) ある (居る) _____
- (2) さうぞく (装束) _____
- (3) ならふ (習ふ) _____
- (4) せうそこ (消息) _____
- (5) てうづ (手水) _____
- (6) りうかう (流行) _____

2 次の古語を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

- (1) さうらふ (候ふ) _____
- (2) じふにひとへ (十二単) _____
- (3) けふ (今日) _____
- (4) にふだう (入道) _____
- (5) くわういん (光陰) _____

3 次の傍線部の語句を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

- (1) なんでふ、さることかし侍らん。 _____

- (2) その山、見るに、さらに登るべきやうなし。 _____
- (3) いとうつくしう 生ひなりにけり。 _____

- (4) 花びらのはしに をかき匂ひこそ、心もとなう付きためれ。 _____

- (5) ひとつ子にさへ ありければ、いとかなしうし 給ひけり。 _____

4 次の傍線部の語句の意味として適切なものを、それぞれ後から選び、記号

で答えよ。

- (1) をかしげなる児の、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむほどに、かいつきて寝たる、 _____

「かわいい子どもが、 _____ 抱いて遊ばせかわいがるうちに、しがみついて寝てしまうのも、」

- ア 露骨に イ 急に _____
- ウ 少しも エ ほんのちよつと _____

- (2) 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆空言なり。

「世間で語り伝えていることは、本当のことは _____ のだろうか、多くは皆作り話である。」

- ア 愛がない イ 意味がない _____
- ウ つまらない エ 見苦しい _____

- (3) 盛りにならば、かたちもかぎりなくよく、

「女盛りになったら、 _____ もこの上なくよくなり、」

- ア 容貌 イ 形式 _____
- ウ 服装 エ 輪郭 _____

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

仁和寺にんなじにある法師、年寄るまで石清水いししみづを拝まざりければ、心憂こころうく覚えて、ある時思①ひ立ちて、ただひとり徒歩かちよりまうでけり。極楽寺②、高良③などを見て、かばかりと心えて、帰りにけり。
 さて、④かたへの人にあひて、「年としごろ思⑤ひつること、はたし侍はたりぬ。聞ききしにも過ぎて、たふとくこそおはしけれ。そも、まゐりたる人ひとごとに、山へ登りしは、何事かありけむと、ゆかしかりしかど、神かみへ⑦まゐるこそ本意ほんいなれと思ひて、山までは見みず」とぞ言いひける。
 少しのことにも先達せんだつはあらまほしきことなり。

問一 傍線部①～⑦の語句を、現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

① _____ ② _____
 _____ ③ _____ ④ _____
 _____ ⑤ _____ ⑥ _____
 _____ ⑦ _____

問二 波線部 a・b の語句の意味として適切なものを、それぞれ後のア～エから選び、記号で答えよ。

a 「心憂く」

ア うれしく イ 気の毒に

ウ 浮き浮きと エ 情けなく

b 「年ごろ」

ア 長年の間 イ 適齢期

ウ 成人 エ 年齢

重要古語チエック

次の各文について、現代語訳の空欄に入る語句として適切なものを、それぞれ後のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- (1) あきらむ
 こもとの浅きことは、何事なりとも、あきらめ申さむ。(『徒然草』)
 「身近なつまらないことは、どんなことでも _____ てさしあげよう。」
 ア 我慢し イ 断念し
 ウ 説明し エ 明るくし
- (2) いらふ
 子三人を呼びて語りけり。二人の子は、情なさけなくいらへて止やみぬ。(『伊勢物語』)
 「子ども三人を呼んで(夢の話を) 語った。二人の子は、冷たく _____ て終はまった。」
 ア 答え イ 無視し
 ウ 背中を向け エ いらだつ
- (3) おこたる
 わづらひ給ひつれど、ことなるなごり残のこらずおこたるさまに見え給ふ。(『源氏物語』)
 「患うれつていらつしやつたが、特に余病も残らず _____ 様子にお見えになる。」
 ア 過失を犯した イ 治っている
 ウ 休みを取った エ 怠おこている
- (4) おどろく
 うちねぶりたる夜さり、……うちおどろきたれば、夢なりけり。(『更級日記』)
 「うとうとした夜、……ふと _____ たところ、夢であった。」
 ア 目が覚め イ びっくりし
 ウ 気づい エ 感心し
- (5) おぼゆ
 むかし、男、わづらひて、心地死しぬべくおぼえければ、(『伊勢物語』)
 「昔、男が、病気になって、気分も死しにそうに _____ たので、」
 ア 思い出し イ 理解し
 ウ 記憶し エ 思われ